

十三浜プロジェクト 2013

 特定非営利活動法人 山の自然学クラブ

三陸・北上地域の活動

山の自然学クラブでは、自分たちの経験と行動力をもとに、自然の恵みを活かして地域に貢献する活動を行っていきます。



- 防災林・自然再生活動
- 復興・再生活動
- エコツアー・現地講座

このプロジェクトには、日本郵便株式会社 平成25年度年賀寄附金「東日本大震災の被災者救助・予防（復興）」の助成をいただきました。

特定非営利活動法人 山の自然学クラブ

www.shizen.or.jp

十三浜プロジェクト

～ 地産材の有効活用と地域の再生に向けた取り組み

活動概要

■ 津波被害を受けた立木などの有効活用、地域資源を活用した有機物の現地リサイクルを目指して

この活動のきっかけは、2011年、宮城県七ヶ宿で水源を守る活動をされている特定非営利活動法人 水守の郷・七ヶ宿さんが活動されている石巻市（旧・北上町）十三浜・相川／小指地区にご一緒させて頂いたことでした。津波による被害を受けた立木などを有効活用しよう、言い換えれば地域資源を活用した有機物の現地リサイクルをしようと活動を始めました。

「地域の資源を大切に活用する」こと、「人の手によるものづくり」の視点を大切にしたいと考え、また今後、住居や耕作地の移転等についての話題も増えてくることが予想されることから、建築の方々の力を貸して頂けないかと考えました。日本工学院八王子専門学校の先生方に相談したところ、建築設計科のカリキュラムで取り組んでくださることになりました。

先生方と相談しながら活動の手順を検討し、2012年にまず一年間試行実施した後、2013年度から本格的に活動を進めています。

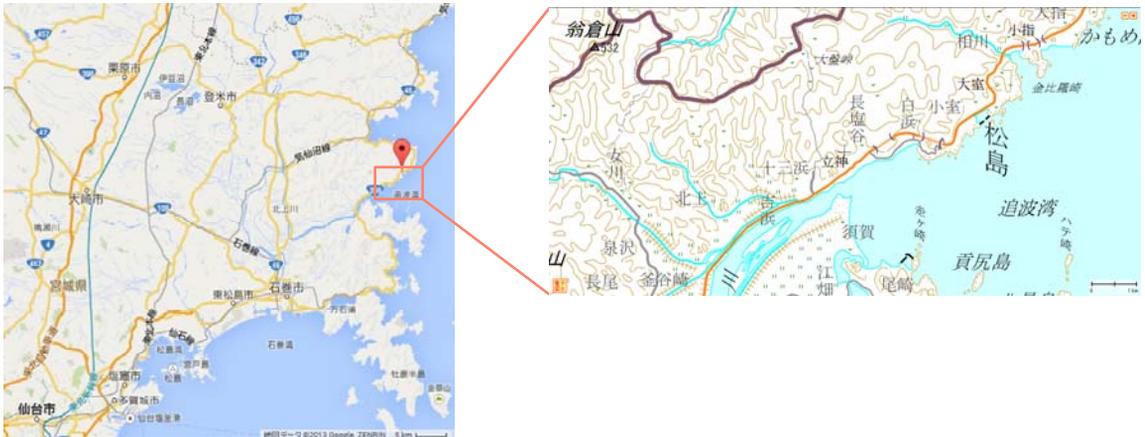
今後は後背斜面の人工林等を対象に含めながら、現地の状況に応じて続けていく方針です。

< 活動の手順 >

1. 伐採必要箇所を優先順位をつけ、地域の方（自治会）と相談しながら伐採
2. 近隣の森林組合・製材所で必要な製材を行う
3. 自治会のみなさんと相談し、製作する建造物および製作スケジュールを検討
4. 木材を日本工学院八王子専門学校に運搬し、学生が実習課題として製作に取り組む
5. 学内での製作発表を行った後、現地に運搬し組み立て・設置を行う
6. 次年度必要な建造物にあわせて伐採を検討する／メンテナンス作業を行う

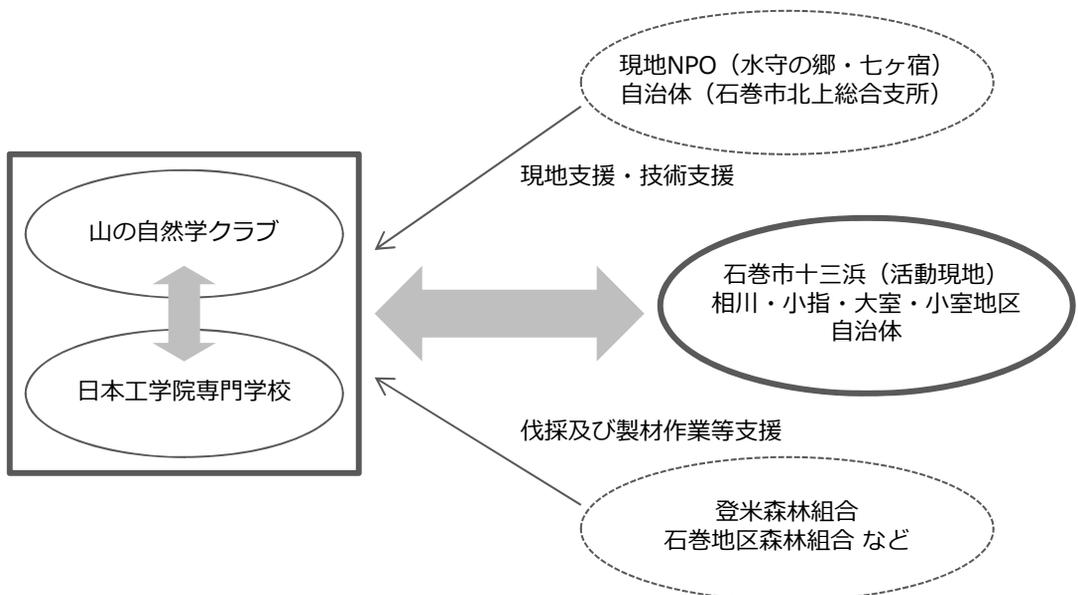
■十三浜について

大河・北上川の河口左岸が旧北上町です。河口から少し北上し、神割崎という南三陸町までの間が十三浜地区。「三陸 わかめ」ブランドで知られ、年間を通じて海産物豊かな地です。旧・北上町は平成の大合併で石巻市となりました。



■プロジェクトの実施体制

この活動は、多様な主体が関わることで実現しました。水守の郷さんを中心とした2011年からの献身的な活動と現地のみなさんの積極的な姿勢があってこそ、私たちも活動をさせて頂くことができます。そして、柔軟に対応して下さる北上総合支所のみなさんや、登米市森林組合・石巻地区森林組合のご協力、楽しく参加してくれる多くの仲間たちなど、すべてのパーツが本当に欠かせない存在です。



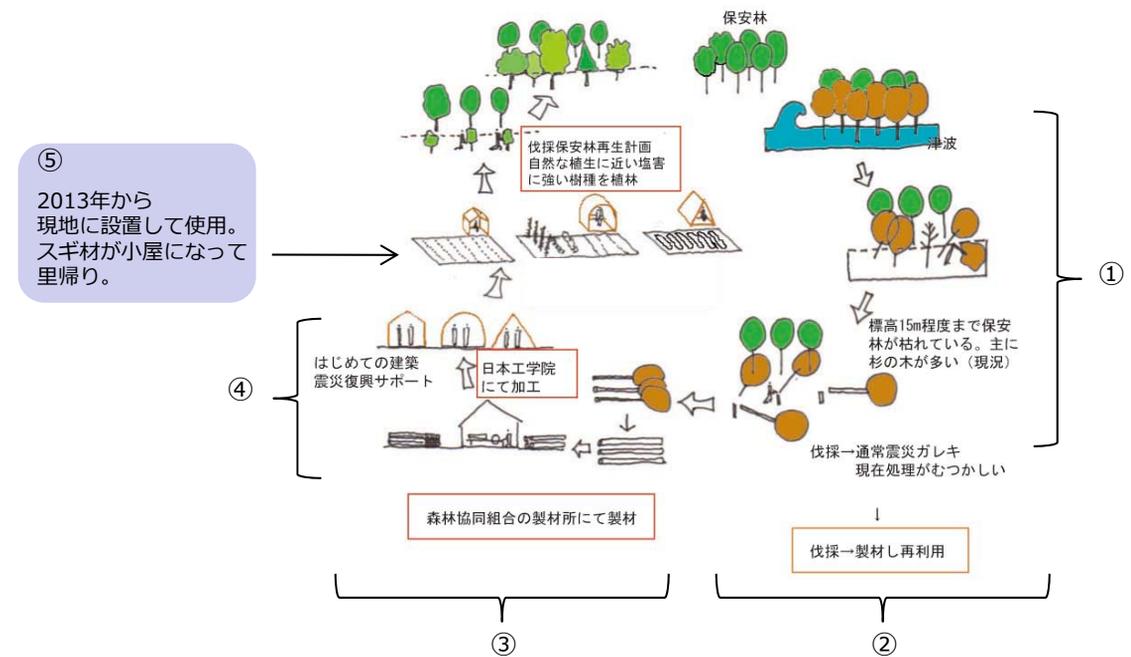
実施内容

■ 2012年に日本工学院八王子校で小屋を製作、2013年に現地へ設置

専門学校建築学科の一年生が毎年取り組んでいる「はじめての建築」という課程で、津波浸水地およびその周辺の人工林の材を素材として使用し、この地域で利用する建築を製作することになりました。

自治会のみなさんと相談したところ、農作業の時に道具を入れたり、ひと休みしたりできるような小屋があったらよい、との要望を頂きました。そこで、2012年にカリキュラムの中で小さな小屋をいくつか製作、優秀作を2013年に現地へ設置しました。設置後も地元の方々の声を聞きながら小屋の改良や調整を進めています。

この活動では、学生を含む地域間の人的交流をもうひとつの大きな目的として、いろいろな取り組みを進めています。



①



宮石巻市北上町十三浜相川地区は、東日本震災で1.5mの津波に襲われ住宅が多数消失。周辺では、スギなどが海面から15mまで枯死しました。

②



一部を冬期に伐採して乾燥。 間伐材を含めて追加伐採。



伐採樹木を積み込むための準備作業を行い数量や台数などを算定。

③



製材と乾燥は登米森林組合にご協力いただきました。
製材・乾燥後に八王子校舎へ運搬しました。



地元、相川地区の方々と対話しながらプロジェクトを進めました。

④



日本工学院八王子校の一年生が「はじめての建築」カリキュラムで小屋を製作。まずは設計と模型づくりから。



製材ずみの木材を搬入。



実物を製作。



学園祭で作品を発表。

⑤

現地への設置 2013年4月30日～5月1日

日本工学院の学生さんが「はじめての建築」の課程で製作して下さった小屋を初めて現場に設置しました。製作した小屋はいくつかのパーツに一旦分解し、八王子から大型トラックで運搬、設置場所におろした後、再び組み上げます。作品はカスタムメイドの一点ものなので、1つ1つが組立手順が異なり、間違えると大変。また、実使用に向けて強度を増す作業も欠かせません。



まずは相川にある子育て支援センターへ。ここは相川中学校の跡地でもあります。2011年4月から使用予定だったところ3月に震災があり、みなさんの避難場所ともなりました。

設置したのは、元気なちびっ子達のための「秘密基地」。運び込んで梱包を解き、組み立てします。弱いところは先生が上手に補強。柔らかいスギの感触を活かして、学生さんが子供達のために、ひとつひとつやすりをかけたそうです。手触りのよい、気持ちのよい秘密基地です。すぐに子供達が集まって、あっという間にみんな入ってしまいました； 中に、椅子やテーブルも置かれ、いつでも遊んでもらえます。



次は、地元の方の畑に資材などをおいて頂けるようにと設計した小屋を設置します。このあたりは風が強く、小屋自体が飛ばされることもあり得ます。強風対策が必須です。一度八王子で組み立てているのですが、それを部分的に分解して再度現地で組み立てていますので、平らでないところへ組み立てることなども含め、ちょっと学内とは具合が異なります。



現地での追加設置・メンテナンス 2013年夏期

一度では全部設置できなかったため、学生さんが引き続き夏にかけて、設置とメンテナンスなどのためにいらして下さいました。夕涼みなどに座れる場所が多い方がよいなど、地元のみなさんの追加の要望を受け、それに合わせて改良も加えます。学生さん達にもいろんな勉強になるようです。

地元のみなさんもいっしょに取り組んで下さったり、アドバイスを下さったり。みなさん、ご自分の必要な物はなんでも自分で作っていらした海の男ばかり。たとえばロープによる固定の仕方や、材の扱いなど。学生さんにもアドバイスを下さったりするようです。



十三浜音楽祭のお手伝い 2013年8月10日～11日

「十三浜音楽祭」が開催され、メンバーがお手伝いをしました。今年は地元のみなさんも多数参加され、漁協の物産直売所も出来たこともあり、たいへんな賑わいでした。漁業と農業両方で支援をされている特定非営利活動法人パルシックさんや好意でいらして下さるミュージシャンの方々など、様々な協力の賜物であると思います。5月にはパルシック支援による漁協産直センターがオープンしました。



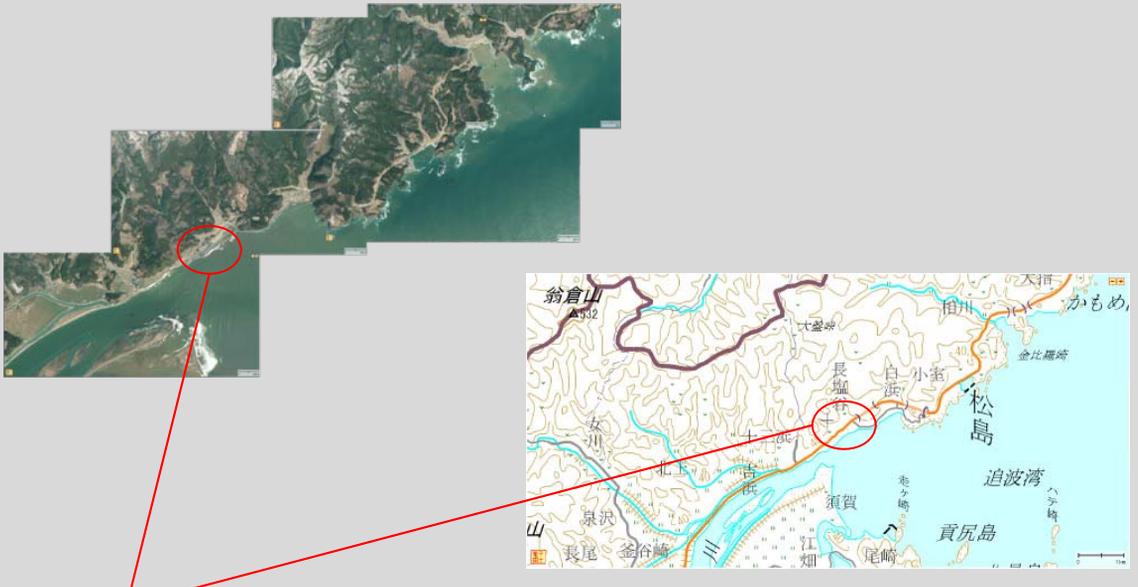
大室南部神楽「復活祭」 2013年5月

十三浜の大室地区に伝わる大室南部神楽の復活祭が開催されました。このお神楽は、季節の祭り、祝い事、住民たちの生活の中に息づき、家から家、父から子へと伝わっていったのです。「大室南部神楽保存会」として北上町（現：石巻市）の無形文化財に指定され、現在に至ります。



2013年度の木材現地調達～小屋の設計・製作がスタート

北上川河口近くの海岸林を伐採する計画があり、そのマツ材を2013年度の製作に活用することができました。伐採されたマツ材は仙台の奥羽木工所に製材していただきます。また奥羽木工所が仙台市の海岸林で伐採した材を処理して加工した集成材「絆ボード」や、宮城県産材も取り寄せて小屋の製作に使うことにしています。



北上川河口近くの海岸林



製材されたマツ材



「絆ボード」パンフレット